



オタマジャクシはカエルの子 それがなにより証拠には！！ お祭り広場は 小さなアカガエルの群れで 大にぎわい

池で生まれ森を目指すアカガエル



探検隊スタッフから「今日(5/3)、雨の中でしたが、孫を連れてお祭り広場にでかけ、二ホンアカガエルの集団上陸の様子が観察できました」と連絡がありました。そうなんです！ 毎年この季節、オタマジャクシから手足が生え、尾がとれたばかりの小さなカエル(体長1cmくらい)が、トンボ池からお祭り広場を横切り、憩の森の林を目指して、集団で移動する光景に出会うことができます。

カエルと言えば水辺の生きものと思われがちですが不思議な暮らしをするカエルです。

調査データに見る立田山のアカガエル

立田山自然探検隊は2008年からスタッフ2人(倉光、益田)が中心となって立田山の二ホンアカガエルの調査を続けています。13年間の調査データから見えてきたものは・・・

二ホンアカガエルは春先の一番早い時期に卵を産むカエル。早春に卵を産むのは、水生



昆虫やヘビなどの天敵を避けてなるべく早くオタマジャクシを大きくする戦略だと言われています。厳冬の池でオスが「キョッ、キョッ」と断続的に鳴きメスを誘い、カップルが成立すると水深の浅い水辺に

1000個余りの卵を産みます。1個体のメスが産卵する卵はひとつかたまり

の卵塊としてまとまるので、卵塊の数を数えるとメスの数を推定できます。産卵後の親カエルは、まだまだ寒い季節なので、春までもう一眠りすると言われています。

立田山の池(トンボ池やサクラ池、湿生植物苑など)では、早い年は12月中旬から産卵が始まり、1月中旬にピークを迎え2月下旬まで続きます。この冬は、2019年12月19日に初めて産卵を確認、2020年1月9日にピーク、最後の確認は3月3日でした。産卵総数は1646個、うちトンボ池が868個。少なくとも1600匹のメスが棲んでいます。探検隊のスタッフは2週間に1回程度定期的に池を訪れ「新しい卵塊の数」を記録し続けています。

例年、探検隊の2月例会は「立田山のオタマジャクシに出会う探検」と題して、ちびっ子達とアカガエルの卵塊数を観察(調査)しますが、今年は残念ながら雨天中止。5月になると、オタマジャクシはカエルとなって森を目指します。

アカガエルを護ることは 自然を護ること

アカガエルの棲息には夏でも乾燥しない広い森、春先に水がたまる湿地や水田といった環境がセットで必要。この環境はほかの多くの里やまの生物にとっても大切なため、アカガエルの卵塊が毎年たくさん見られる立田山は、森と水辺の状態が良好である「自然が豊かな環境」と言えます。



▲2019. 2. 17／探検隊例会の様子